



『太安萬侶』の聖地を訪う

9月12日。近鉄奈良駅に26名参集。この朝天空はどこまでも碧く、乾いた空気が小さな秋を感じさせる。鈴木さん肝入りの生駒交通チャーター便で出発する。

先ず、鉢伏山南端を岩井川沿いに疾駆、田原此瀬町に入る。古代この地は天皇・貴族の葬送地として位置付けされていた。今は南斜面に茶畑が広がり、大和茶の産地として鄙びた風景を醸す。1979年茶樹を植え替え中、竹中英夫さんが偶然発見、発掘の結果、太安万侶の墓誌が出土し、高松塚古墳に次ぐ大発見として話題となる。

急斜面を登るとストーンサークルに象られた墓地が。墓標の側に1300年の眠りを告げ、一本の百日紅が供花の様に、印象的であった。安万侶の偉業が墓誌によって明らかとなり、古事記（フルコトブミとも言う）の編纂者として実在が確認される。当時の葬列、祭祀の衣装など、どんなものであったろうか。ロマンに思いを馳せ、後にする。



少し離れた光仁天皇陵・春日宮天皇陵・北浦定政顕彰碑を訪う。岩本・杉本両氏の語り部宜しく北浦定政（江戸後期の国学者 条坊制の研究者）の功績、仏教偏重の政治を改めた光仁天皇の事績と皇統譜。春日宮天皇（施貴親王 歌人、光仁天皇の父。天皇の諡号を賜る）の事ども。熱い語りを拝聴する。

唐古・鍵遺跡。幾度かの発掘により弥生期の大環濠集落が明らかになりつつある。唐古池の一角にある出土土器の文様を復元した楼閣が面白い。遠見すると異国へ来たかと錯覚する程。近くに国の考古学ミュージアムがあり、唐古遺跡の成立ち、出土品が展示され、専属ガイドさんの説明を傾聴する。私の印象としては正にこの地は弥生時代のキャピタル（首府）ではなかったか。物流の要衝として文化の進化の源であったろう。

卑弥呼の誕生、ヤマト政権への繋がりには謎があるとしても、興味はつきない。

今日の主人公 安万侶の太（多）一族を祀る多神社を参拝。51代宮司 多 忠記さんから故事来歴を拝聴。平野部にある大社として広大な神域であったとか。確かに奈良の大社は全て山麓に建つ。安万侶の分骨が未だ農地法に阻まれ納骨されず、宮司の手元にあると言う。神も現代の法律には勝てぬものなのか。

最後に、橿原考古研博物館に入る。石器時代から縄文・弥生・古墳時代を経て、飛鳥・藤原京、奈良期・平安期・中世に至る文化遺産が整然と並び、宮山古墳、安万侶墓と墓誌の模造と実物に触れ、今回の締めくくりとして有意義であったと思う。

熱心に見学頂いたご参加の皆さんに敬意を表し、語り部の岩本・杉本・古川各氏のご協力に感謝申し上げます。また鈴木氏には裏方としてお世話いただき、お礼申し上げます。

次回を楽しみに。

（文責 川井）